

- 1 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、農具や武器として実用的に使われたものを何という？
- 2 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？
- 3 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？
- 4 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？
- 5 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？
- 6 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？
- 7 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王に贈られたことを示す重要な遺物を何という？
- 8 縄文土器にくらべて薄手でかたく、赤みを帯びた、弥生時代の土器を何という？
- 9 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？
- 10 銅剣や銅矛が多く出土しており、銅鐸の主な出土地帯とは異なる特徴を持つ地域はどこ？
- 11 弥生時代に導入された金属器のうち、硬度が高く、刃先などの実用的な道具として生産力の向上に貢献したものを何という？
- 12 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見された、福岡県にある場所はどこ？
- 13 弥生時代の日本が、中国の王朝へ進んだ文化や権威を求めて使者を送り、贈り物や献上品を送る外交形式を何という？
- 14 弥生時代において、祭礼や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？
- 15 福岡県の志賀島で発見された金印を授けた、弥生時代の中国の王朝を何という？
- 16 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？
- 17 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？
- 18 3世紀頃、邪馬台国を治め、中国の魏に使者を送ったとされる女王は誰？
- 19 弥生時代に祭礼の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣り鐘状の青銅器を何という？



① 書く
鉛筆で答えを書く

② 隠して言う
赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

③ 印を付ける
言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。		鉄器	☐
2	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。		魏志倭人伝	☐
3	銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。		銅鐸	☐
4	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。		吉野ヶ里遺跡	☐
5	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。		ローマ帝国	☐
6	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である後漢の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。		後漢	☐
7	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。		金印	☐
8			弥生土器	☐
9	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。		祭祀	☐
10	青銅器の中でも、銅剣・銅矛は九州北部を中心とする西日本に、銅鐸は近畿地方を中心に多く出土し、文化圏がはっきり分かれていました。		九州地方	☐
11	鉄器は主に農具の刃先や、武器としての剣や矛などに加工されました。		鉄器	☐
12	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。		志賀島	☐
13	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。		朝貢	☐
14	青銅器は主に銅鐸や銅鏡、銅剣などに鑄造され、それらが高い装飾性を持っていたことから、主に集落の祭礼や儀式、または権力者の威信を示すための道具として使われました。		青銅器	☐
15	志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印は、1世紀頃、後漢の光武帝が日本の使者に授けたものと考えられています。		後漢	☐
16	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。		金属器	☐
17	漢鏡は、中国の漢王朝で鑄造された銅鏡で、高い鑄造技術による精巧な文様が特徴です。		漢鏡	☐
18	卑弥呼は「鬼道」と呼ばれる呪術を用いて人々を統治した女王です。		卑弥呼	☐
19	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。		銅鐸	☐

言えなかった用語ノート